

160体以上の縄文人の人骨が発掘された中国地方の代表的な貝塚

津雲貝塚



指定区分	国指定史跡
読みかた	つくもかいづか
所在地	笠岡市西大島
指定年月日	昭和43年5月11日
解説	主に海産の貝で形成された縄文時代の貝塚。南北60メートルの広がりをもつ。大正4年に発見されて以来、数々の発掘調査によって縄文時代後期の標式土器（津雲A式土器）をはじめ、縄文時代各時期及び少量の古墳時代の遺物が出土している。特に160体以上検出された人骨は各種の身体装飾品を伴った屈葬のものが多く、また抜歯も認められる。
アクセス方法	バス停「大島小学校前」から約0.2km / JR里庄駅または笠岡駅から約4.5km
公開状況	自由
設備	
備考	発掘された資料は笠岡市立郷土館に展示されています。

## きつずページ



していくぶん (指定区分)	国指定史跡
ぶんかざいめい (文化財名)	津雲貝塚
よみかた	つくもかいづか
しょざいち (所在地)	笠岡市西大島
していつひ (指定した日)	昭和43年5月11日
せつめい	縄文時代(じょうもんじだい)の人骨(じんこつ)が160体以上も発見(はっけん)された、とても有名(ゆうめい)な貝塚(かいづか)です。人骨の体にはいろいろな飾(かざ)りをつけ、体を丸(まる)めて埋葬(まいそう)されていました。また、当時(とうじ)の人たちは成人式(せいじんしき)や結婚式(けっこんしき)、葬式(そうしき)などのときには抜歯(ばっし)といって、歯(は)をぬく儀式(ぎしき)が行われていたことが分かりました。